

東京ニューシティ管弦楽団

音楽監督・常任指揮者 内藤 彰
 コンサートマスター 藤田めぐみ
 インスペクター 金岡秀典 山川奈緒子
 ライブラリアン 上村雅英
 アドミニストレイティブディレクター 渡部中子
 事務局 渡辺晶子 上澤あい子 青木勝弘

●——Violins	山川 奈緒子	●——Double-basses	●——Bassoons
◎藤田 めぐみ	吉井 孝子	○金岡 秀典	藤田 句
○上原 まさみ	●——Violas	薄井 浩史	齋藤 美和子
井上 直子	○桜井 多美子	金子 敦子	越 康寿
遠藤 雄一	小西 応興	菅野 明彦	●——Horns
岡田 邦子	塩路 まもる	徳高 宏行	小川 正毅
小澤 郁子	杉本 伸陽	本間 園子	飯島 さゆり
小澤 薫	鈴木 るか	●——Flutes	広川 実
小野 久美子	古屋 孝則	井ノ上 洋	上村 雅英
菊池 真理子	松田 美奈子	内山 豊美	西村 亜希子
工藤 由紀子	光行 澄子	名越 篤	●——Trumpets
小林 清美	●——Violoncellos	●——Oboes	小貫 誉
小宮山 裕子	○斎藤 章一	徳田 振作	古田 賢司
富山 ゆりえ	岡田 一樹	池田 祐子	●——Trombones
中村 朱見	柿沼 智恵子	●——Clarinets	白濱 俊宏
蜷川 いづみ	加藤 浩樹	西尾 郁子	林 哲也
廣島 美香	仙石 由紀子	黒井 理恵	榎原 徹
宮林 陽子	富成 優子		●——Percussion
室井 美子	平沢 元		米山 明
山江 洋子	望月 直哉		伊沼 弘能

●第10回定期演奏会● 9月14日(日)午後2時30分 北とぴあ さくらホール

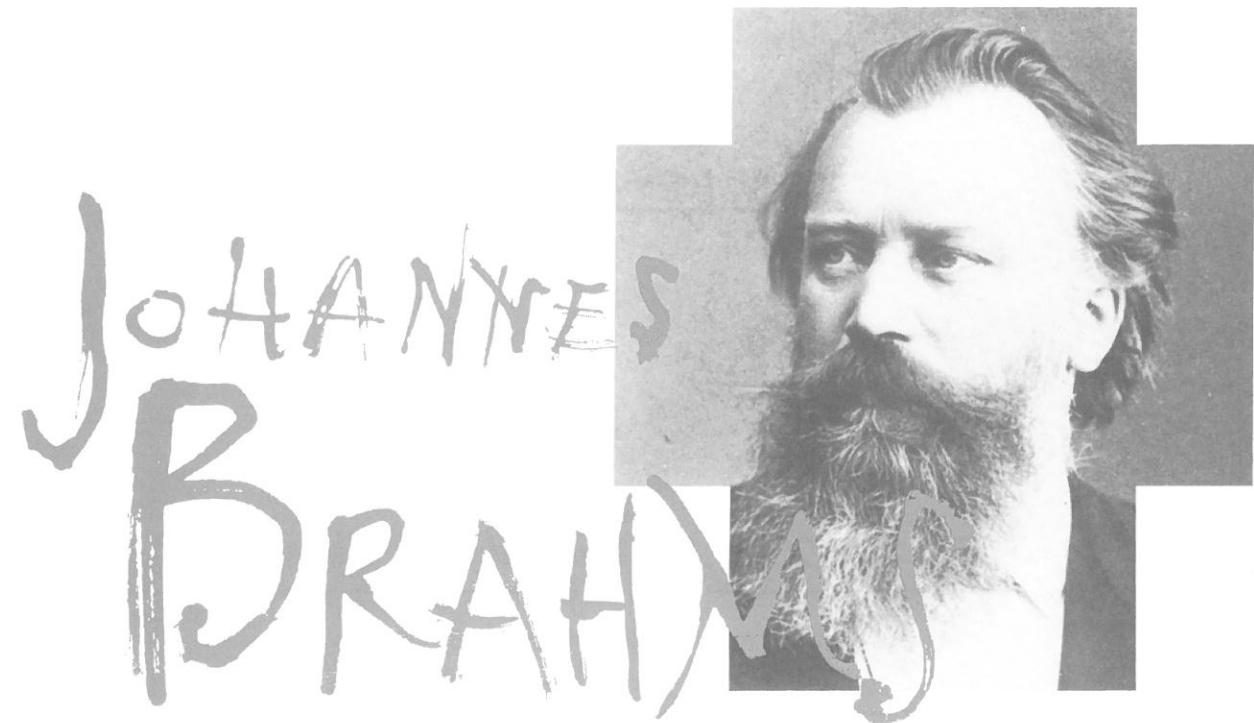
指揮:内藤 彰 共演:東京合唱協会(第14回定期演奏会)

《オペラ名序曲・合唱曲集》 ヴェルディ「運命の力」序曲 ボロディン「イーゴリ公」より ダッタン人の踊り
 ヴェルディ「アイーダ」より 凱旋の合唱 他

東京ニューシティ管弦楽団事務局:〒170 東京都豊島区東池袋1-31-13 ライオンズマンション東池袋第3-805 TEL.03-5952-7617 FAX.03-5952-7618

東京ニューシティ管弦楽団

第9回定期演奏会



ブラームス没後100年特別プログラム

1997年3月23日(日) P.M.2:30

北とぴあ さくらホール

■主催:東京ニューシティ管弦楽団

■共催:(財)北区文化振興財団

P R O G R A M

Brahms

ピアノ協奏曲第1番

ニ短調 作品15

Klavier-Konzert Nr.1 d-moll op.15

交響曲第1番

ハ短調 作品68

Symphonie Nr.1 c-moll op.68

プログラムをめぐって

奥田 佳道



ヨハネス・ Brahms

1833年5月7日ドイツ・ハンブルク生まれ～1897年4月3日
オーストリア・ウィーン没。

ドイツ北部の港街ハンブルクに生まれ、20歳のときにシューマンに才能を見出されました。1862年に楽都ウィーンを(当初は軽い気持ちで)訪れ、以降この街を本拠にピアニスト、指揮者、後期ロマン派作曲家の旗頭として活動するようになります。1872年から75年にはあのウィーン楽友協会の芸術監督／指揮者に迎えられています。作曲はペルチャッハ、バートイシュル、トゥーンといったオーストリア南部、スイスのお気に入りの避暑地で行ないました。古典派ソナタ形式を尊重しながら、重厚で哀愁を漂わせた傑作、ハンガリーの響きを内在させた逸品を多数編み出したことは皆様ご存じの通りです。

ちなみにウィーン楽友協会、ウィーン・フィルで初演された代表的な作品には、ハイドンの主題による変奏曲(指揮は作曲者自身)、交響曲第2番、第3番(指揮はハンス・リヒター)があります。

P R O F I L E

●東京ニューシティ管弦楽団

Tokyo New City Orchestra



東京ニューシティ管弦楽団は、1990年、音楽監督・常任指揮者に内藤彰を擁し設立された。定期演奏会の他、名曲コンサート、協奏曲・オペラ・バレエ公演など幅広く活躍している。

特にオペラの分野では評価が高く、二期会、藤原歌劇団の他、レナータ・スコット、アルフレード・クラウス、ヘルマン・ブライ、カーティア・リッチャレッリ、マリエッラ・デビア、マリア・キアーラ、渡辺葉子等世界で活躍するオペラ歌手との共演も多く、聴衆や批評家のみならず、世界の一流オーケストラと共に演している彼らからも、絶賛の言葉を贈られた。

バレエでは、国内のバレエ団の他、英国バーミンガムロイヤルバレエ団、ロシア国立レニングラードバレエ団、オールスターバレエガラ公演、オーストラリアバレエ団、ペラルーシ・ボリショイバレエ団等海外からのバレエ団の日本公演でも大変高い評価を得ている。平成8年度のバレエ公演は、70回近くにのぼり、日本のオーケストラの中で一番多くの公演数を数える。

また、桂三枝、三枝成彰、ケント・ギルバート、マリ・クリスティーヌ等を迎えてのファミリーコンサートも、大変評判が良く、多くの方から親しまれている。

メンバー個人個人の実力はもちろん、それぞれの温かい人間性も共演の指揮者、ソリストから大変高く評価されており、また、一切の無駄を省いた新しいオーケストラの運営方針もユニークな発展を見せており、最近その活動が各方面から注目されている。

平成8年度より、(社)日本クラシック音楽マネジメント協会に加盟し、東京第10番目のオーケストラとして、今後の益々充実した活動が期待されている。

●内藤 彰 [指揮]

Akira Naito



名古屋大学理学部卒業。在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科(指揮専攻)にて、小澤征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏他に師事し、修了後、(社)山形交響楽団の専属指揮者を3年間務める。

これまでに新日フィル、東フィル、東響、新星日響、シティ・フィル、九響、名フィル他、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。シンフォニーはもちろん、オペラ・バレエの分野でも、その音楽性とテクニックは聴衆の心からの共感と、共演者の絶大なる信頼を得ている。

海外では、1991年旧ユーゴスラヴィアを代表するベオグラードフィルハーモニーを指揮し好評を博した。また、1992年には、モスクワ音楽院大ホールにて、モスクワ管弦楽団を指揮し、最初のステージから満員の聴衆の5度のカーテンコールを受け、多くの楽員たちからもロシア音楽の魂を日本人から教えたと絶賛された。1996年5月には、ロシアの国立ヴァローニュ歌劇場にて、「セヴィリアの理髪師」を指揮し、絶大なる賞賛を受けた。本年もヨーロッパ各地での客演が予定されている。

現在、東京ニューシティ管弦楽団、及び、プロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督、常任指揮者。1996年1月モスクワ管弦楽団客演指揮者に就任。北区民オーケストラ、及び、北区民混声合唱団常任指揮者。日本指揮者協会幹事。

●アレクサンドル・M・マルクス [ピアノ]

Alexandre M Markous



モスクワ音楽院で名教授、故V.ナタンソンに師事。在学中にエネスコ国際コンクール入賞、ベルグラード国際コンクール(1972年)1位、の好成績を修め、チャイコフスキーカーネギーホールにて、モスクワ・フィルハーモニーとのコンチェルトでデビューを飾る。卒業後、ヴィオッティー国際コンクール(1976年)で2位を勝ち取り、以降、現在に至るまで、母校、モスクワ音楽院にて後進の指導に従事する傍らモスクワ・フィルハーモニーのソリストとしてコンサート活動にも余念がない。西側ではドイツ、フランス、米国、イタリーなどでたびたび演奏会を開いている。レコードもアメリカを含め、4枚出ているが、モスクワ・ラジオでロシア音楽とバロック音楽のライブ放送を、長年取り組み続けている。